

船舶事故調査報告書

令和5年8月2日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	沈没
発生日時	令和4年7月8日 19時10分ごろ
発生場所	大阪府田尻町田尻漁港 大阪府岡田港波除堤灯台から真方位068°1,300m付近 (概位 北緯34°23.8′ 東経135°17.3′)
事故の概要	漁船光徳丸は、航行中、機関室に浸水して沈没した。
事故調査の経過	令和4年7月20日、主管調査官（神戸事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	漁船 光徳丸、1.2トン
船舶番号、船舶所有者等	OS3-5040（漁船登録番号）、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	沈没（全損）
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南南西、風力 2、視界 良好 海象：波高 約0.5m、潮汐 下げ潮の初期
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、田尻漁港沖を漁場に向けて航行中、船長が機関室の浸水に気付いてポンプで排水を始めたが、水量が増えていった。</p> <p>船長は、排水を断念して田尻漁港に急いで向かい、田尻漁港内に停泊していた底引き網漁船に本船を近づけて移乗した後、本船は、船首部を残して沈没した。</p> <p>本船は、後日、陸揚げされて整備業者が確認したところ、主機のゴム製排気管（以下「本件排気管」という。）の船尾端接続部が外れていて、船尾排気口から船尾区画に流入した海水と本件排気管からの主機冷却海水が機関室に浸水していたことが確認された。</p> <p>整備業者は、本件排気管の船尾端接続部を締め付けていたホースバンドが腐食した状態で船尾区画に落ちていたので、同ホースバンドが老朽化して破断した状態で航行中、本件排気管が外れたと思った。</p> <p>船長は、本船を本事故の約20年前に中古で購入し、日頃から出航前に機関室に浸水やオイル漏れがないか目視点検を行っていたが、本件排気管の接続状況の点検を行ったことはなかった。</p>
分析	<p>本船は、約20年前に中古で購入されてから本件排気管の接続状況の点検が行われておらず、本件排気管の船尾端接続部を締め付けていたホースバンドが老朽化して破断した状態で航行中、本件排気管が外れたことから、船尾排気口から船尾区画に流入した海水及び本件排気管からの主機冷却海水が機関室に浸水し、沈没したものと考えられ</p>

	る。
原因	<p>本事故は、本船が、約20年前に中古で購入されてから本件排気管の接続状況の点検が行われておらず、本件排気管の船尾端接続部を締め付けていたホースバンドが老朽化して破断した状態で航行中、本件排気管が外れたため、船尾排気口から船尾区画に流入した海水及び本件排気管からの主機冷却海水が機関室に浸水し、沈没したものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 船長は、主機の排気管の接続部の点検を定期的に行い、長期間使用された部品等は早めに新替えること。